

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊田市こども発達センター なのはな		
○保護者評価実施期間	2025年11月1日		2025年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2025年9月1日		2025年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの育ちやこどもの発達(聴こえやことば、基本的生活習慣等)をとらえた、目標設定とこどもや保護者に寄り添った支援	日々の療育の中でこどもの育ちや発達を確認し、目標設定を行っています。目標を達成するための支援方法について保護者と一緒に考え無理なく目標が達成できるような支援を行っています。	こどもの育ちや発達に対する職員の専門性を高めることで、よりこどもの実情に合った目標設定や支援の方法が可能になると考えられます。職員研修や個別カンファレンスなど今以上に充実させます。
2	こどもや保護者の困り感に対してすぐに相談できる体制	なのはなは家族通園のため、保護者の困り感や不安に対してすぐに相談できる体制が整っています。保護者からの申し出があればすぐに個別懇談を行い相談に応じています。保護者の意見をしっかり確認しながら保護者とともに解決できる方法を考えています。	保護者の気持ちに寄り添えるよう、普段から保護者が話しやすい環境作りを心掛け保護者との信頼関係を構築します。懇談の予定が変更になった場合は速やかに次の予定を入れるようにします。
3	すぐに保護者に報告できる環境	毎日一緒に過ごしている保護者ではわかりにくい成長やこどもの変化をすぐに報告できるようにしています。こどもの良いところを見つけ次の目標に前向きに取り組めるような支援を行っています。また体調不良やけがなどこどもの体調の変化を見逃さないように努め、すぐに保護者に報告できるようにしています。	職員だけでなく保護者からも気づいたことを伝えることができる環境を整え、こどもの育ちに活かしていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	雨天時や暑い時の活動場所の不足	雨天時や暑い時に教室以外で活動できる場所が少ないため、教室での活動が多くなってしまうことがあります。	急な活動変更でもこどもたちが楽しみ、成長につながるような活動を計画します。
2	他事業所(相談支援事業所、児童発達支援事業所等)との連携不足	令和6年度に比べ相談支援事業所と情報共有を行うことができました。他の事業所との連携のさらなる拡充に努めます。特に専門性が必要なこどもが利用している他の事業所に対して児童発達支援センターとしてどのような支援ができるのか検討していきます。	聴覚障がいなど児童発達支援センターからの専門的な支援や情報共有が必要な事業所に対してどのような支援方法があるのか、事業所の状況や意見を参考に検討していきます。
3			